

平成23年8月13日

株式会社 セレコーポレーション  
取締役 常務執行役員 佐野 章 様

東松島リトルシニア  
監督 木村 仁

御 礼

先日は“絆 甲子園”に、ご招待を頂き有り難うございました。チーム一同感謝の気持ちでいっぱいでございます。

私たちが活動拠点としております東松島市は、平成17年に旧矢本町と旧鳴瀬町が合併して出来た町であり、ご存じの日本三景松島の東に位置していることから、公募により東松島市となりました。人口は約43,000人、世帯数は15,000世帯、市の面積は101km<sup>2</sup>の小さなまちであります。

そんなまちを、3月11日、午後2時46分、千年に一度と言われております宮城県沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生し、震度6強の激しく長い揺れが襲いました。

その後、太平洋沿岸を中心に大津波が発生し、海岸から内陸に直線で3kmまで押し寄せました。本市では沿岸部の家屋や施設はことごとく破壊され、市の面積の30%、市街地の約60%が浸水し、多くの方々が死傷され、そして大切な家族、財産が一瞬にして失われました。

津波の高さは10m、沿岸部の浸水区域での浸水水位は6m、また市街地の浸水水位は2mから1mでした。

この津波で、現在までに本市で亡くなられた方は、1,044名、行方不明の方は104名、うち小中学生で亡くなった人が33名おり、5名が未だに行方不明です。現在も警察の方々により行方不明者の捜索が行われております。

震災前の東松島市は、雄大な海と沿岸部に広がる松林、豊かな自然の中にある海水浴場、遊覧船や釣りなどが楽しめる場所も豊富にあり、多くの方々に愛され親しまれておりましたが、大津波でその景観が一変しました。道路は寸断され家も緑も津波で流され、歴史ある緑豊かなまちは泥と瓦礫で埋まりました。

このような中、私たちのチームは4月下旬から少しずつ練習を再開しました。チームの中には家を失った人、大切な家族を失った人もいます。正直、野球をしている場合には無いと思いましたが、落ち込んでいる子供たちを元気づけるには、好きな野球を再開することが一番とのチームの会長からお許しを頂き練習を再開しました。

市内にある野球場は4箇所ですが、そのうち沿岸部にあった球場は津波で破壊され、残った3箇所のうちの1箇所は津波で流された自動車の仮置き場となり、もう1箇所は仮設住宅が建っている状況です。唯一、私達が普段使用している運動公園は高台にあるため無事でしたが、その公園も災害派遣で来て頂いている自衛隊の宿営地となっていて、多くの自衛隊車両や器材、そして宿泊テントが設営されている状況でした。また、野球場は臨時のヘリポートに指定されており、ヘリコプター発着時には練習を中断して球場の外に出なければなりませんでした。

災害復旧で応援頂いている自衛隊の方々、全国各地の自治体から応援を頂いている職員の方々、また、ボランティアで応援頂いている方々は公園にテントを張って、毎食カップ麺や缶詰食品を食べながら頑張っている人たちもいます。そのような人たちが居るのに私たちは野球をしていて良いのだろうかと思うとき、集中して野球に取り組める環境ではありませんでした。その野球場の周辺にも仮設住宅が建ってしまいました。

そのような中、これまで全国の野球仲間からの野球関係の物資支援、励ましの手紙や応援メッセージを頂き、私たちに元気と勇気を頂きました。

この度も、私達のために“絆 甲子園”を主催頂きました株式会社セレコーポレーション様には感謝の気持ちでいっぱいです。今年は練習試合も多く組めずに日本選手権東北大会に臨みました。そして残念ながら1回戦で敗れてしまいました。3年生は欲求不満が溜まっていたものと思います。そうしたとき、このような大会を開催して頂き本当に有り難うございました。3年生も満足し帰路につきました。

私達にとっても、まして子供たちにとって千年に一度の災害が降りかかり、このような体験をしなければならないとは思いませんでした。

でも、私達も泣いてばかり居られません。前に進まなければなりません。歩みは遅いかも知れませんが一步一步進みたいと思います。

そして一日も早く私たちが元気になること。それが、こうして温かく支援・応援して頂いている皆さんへのお礼だと思っています。

今後とも宜しくご支援賜りますようお願いを申し上げ、御礼とさせていただきます。

素晴らしい野球仲間がいることを忘れません。